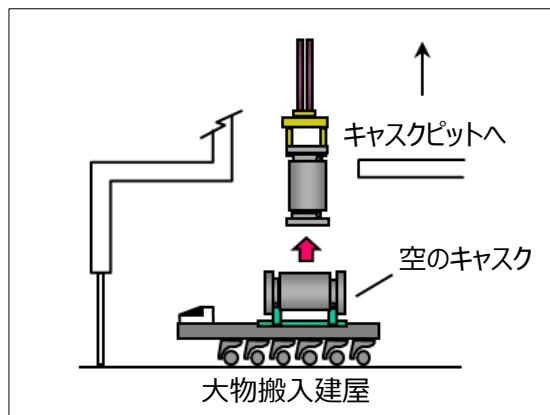


使用済燃料の号機間輸送について

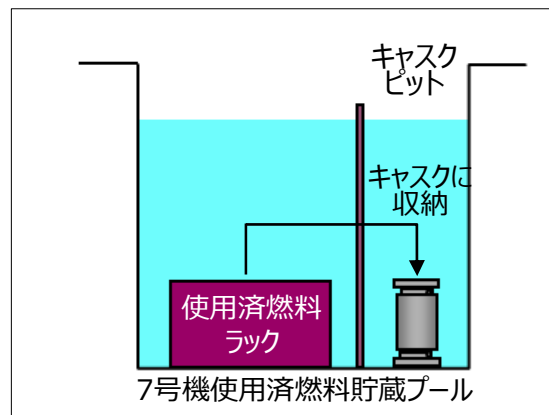
- 号機間輸送は、発電所全体における使用済燃料の管理・運用に柔軟性を持たせるため、使用済燃料を他号機の使用済燃料プールに輸送するもの
- 輸送の際は、燃料取替機を用いてキャスクに燃料を収納して、安全性を確保しながら実施

<号機間輸送の流れ>

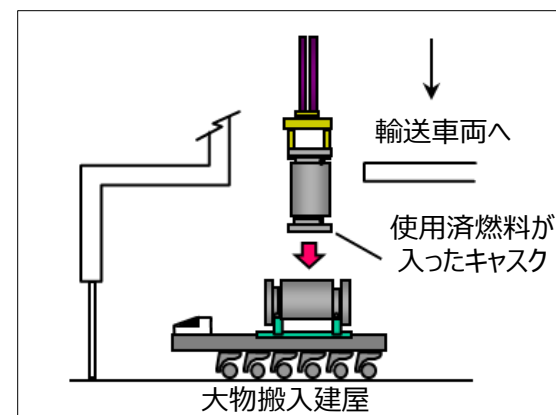
①7号機原子炉建屋への搬入



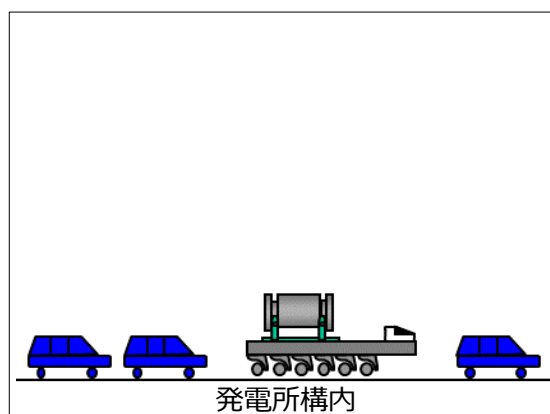
②使用済燃料をキャスクに収納



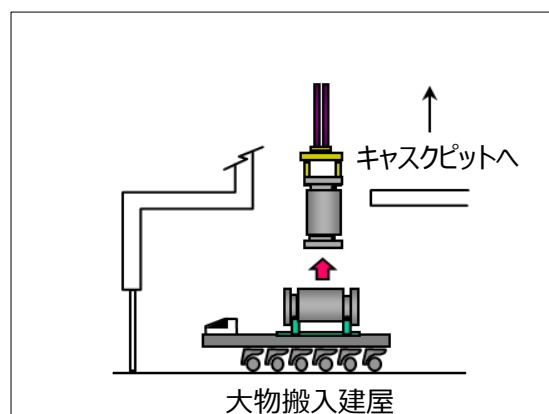
③7号機原子炉建屋から搬出



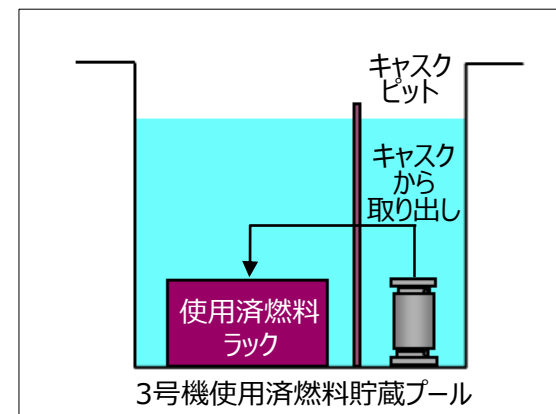
④構内輸送 (3号機へ)



⑤3号機原子炉建屋への搬入



⑥キャスクから使用済燃料取り出し



(参考) 号機間輸送用キャスクの仕様について

- 使用済燃料の輸送に使用する専用の容器
- 主な機能は、閉じ込め、遮へい、臨界防止、除熱
- 健全性確認では、9 m高さからの落下試験、800℃の耐火試験、深さ15mの水中での浸漬試験を実施

	号機間輸送用キャスク	(参考) RFS向けキャスク
用途	輸送 (湿式)	輸送 兼 貯蔵 (乾式)
燃料収納体数	38体	69体
外径 (緩衝体含む)	2.6m	3.6m
全長 (緩衝体含む)	6.4m	6.8m
キャスク重量 (燃料含む)	119トン	132トン
備考	容器内に燃料を収納し、水を充填 (運搬時に使用)	容器内に燃料を収納し、真空乾燥後 にヘリウムガスを充填。貯蔵施設へ 輸送後は、圧力等を常時監視すること で、空冷保管が可能

構内輸送イメージ

号機間輸送用キャスク

